

フィリップ・ステッドマン著

鈴木光太郎訳

## 光の画家の制作の秘密に迫る

17世紀のオランダで活躍した画家、フェルメール。残された作品はわずか三十数点ながら、世界中の人々に愛され、今も熱い注目を集めている。本人の来歴は、ほとんど知られていない。素描や下絵も残っていない。謎に包まれた制作過程に、果敢に挑んだプロセスとその成果をまとめたものが本書である。

著者の専門は建築学。フェルメールの絵には、左側に窓のある室内と人物を描いたも

のが多い。これらの部屋は同一のものか。もし同じとすれば、再現は可能だろうか。

当時のオランダで使われた光学装置に「カメラ・オブスクラ」と呼ばれたものがあつた。

ピンホール・カメラを大型にしたもので、フェルメールの絵に見られる遠近法や、光の描写等から、画家がこの装置を使って制作した可能性を探る。

驚くべき精密さで完成された絵画であることが、幾何学的な謎解

きや、光学的な実証を可能にしている。私たちが絵から感じる安定感や、静かさ、光の輝きが、どのようにしてもたらされたのかが、詳細な研究によって明らかになっている。

口絵写真には再現された部屋の写真と原画が並び、その正確さは見事というほかない。フェルメールの絵の魅力のありかに迫り、画家のアトリエの空気まで伝わってくるような力作である。(尚)

●新曜社・3360円